高校阿倍野新聞

発行所
大阪市阿倍野区阪南町一丁目
大阪府立阿倍野高校
新聞部
編集発行人　津川　敏子

10月　行事予定
19日　（金）中間考査
11月　行事予定
11日　（日）文化祭
19日（月）～23日（金）
修学旅行

スプリングつき柔道室

出来上がった学校の衣がえ

・今年の十一月十一日で、創立以来四十周年を迎えるが、その記念行事の一つとして、去る八月七日より、校舎内の壁、天井のぬりかえ・第二運動場をブロック塀に、そして控室を柔道場にする等、二ケ月の予定で工事にかかったが、ブロックとぬりかえは、九月七日に一応完成した。

明かるくなった校舎内

湾曲型の黒板使用

四十周年の記念行事の一つとして夏休みを利用して、約一ケ月の予定で、去る八月七日から校舎内の天井、壁、階段等のぬりかえ工事が行われていたが、九月七日に一応完成した。この工事は、校舎内の天井や壁に穴があったり、だい分いたんでいたし、よごれていたので記念行事にちなんでやったものである。今迄四十年間の伝統を誇っていた校舎内も、一ぺんに明かるくなり、廊下も、今迄よりは音がたたなくなって、ずいぶん若返った。しかし、工事が遅れ夏休み中に終る予定だったのが、新学期には間に合わず、始業式も運動場だけで行った。ぬりかえだけで、総工費約二百万円かかっている。教室内の黒板も、一部だけ使用していた湾曲型のものが、全部の教室に取りつけられた。せっかく新しくぬりつけられた壁なども以前から穴があいていたものはそのままで、ただ上からぬったという状態であり、そのため、前のよごれも消えないで残っているところが大分多い。新学期早々、校内の大そうじがあり、ベンキや壁土が、机、床についていて大いに悩まされた。しかし今では明かるい教室で気持ちよく勉強できるよい環境となっている。

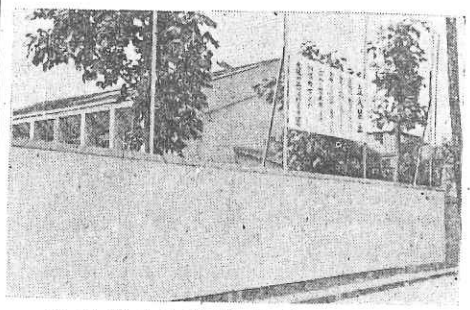
ブロック塀

意外に多い不満の声

八月七日より九月末日までの予定で、第二運動場の塀が八十万円の費用をかけて九月七日に一応改造された。

改造内容は下段の金網をブロック造りにするのだが、生徒の間では「何かに入れられているようで、のびのびとした運動場の感じがなくなってしまう。」とか「なぜわざわざお金をかけて無駄な事を。」と、いろいろな声が聞かれる。

学校側としては、「今の金網が古くてぼろぼろになってきている。これを修繕すると言ってもたいそうな事だし、ちょうど改造の時期なので工事に踏み切った。ブロックの塀にすれば、外の事にも気を取られず、授業に身が入るからという意見である。実際に使用してみない限り、その利点や、不都合な点はわからない。だから、長年運動部の練習を観覧されてきた地区のハヤや、この金網の向こうに展開されている風景に愛着（？）を持っている人々には親しみがうすれてしまった。しかし授業に身を入れて運動に競技にはげむのには丁度よいだろう。



総工費80万円也の
第二運動場ブロック塀

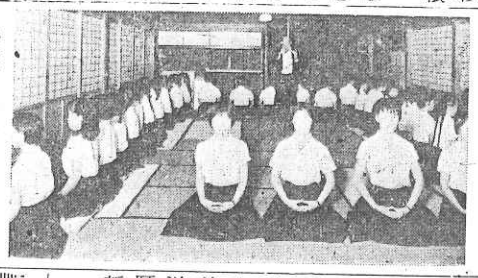
記念会館再建進む

四十周年の記念事業の一つとして九月19日より記念会館が第二運動場の東側に再建されている。これの前体は茅蔭会という同窓会の手によって運営され、同窓会に、華道茶道の講習会にと市広く利用されていた。が、昭和30年3月のある日生徒の前で焼失してしまった。その後再建準備委員会が結成され同窓生の間にも同窓会館建設委員会が出き、各方面に働きかけて今に至った。一応10周年にあたる昭和37年11月11日に完成する予定となっていたが、設計の事や、各方面の意見の調整等で着工が事のほか、遅れてしまった。このまま順調に工事が進めば、来年38年2月末には完成する。今までは同窓会を催すにも、わざわざデパートの食堂を借りていたが、今後は会館内でできる。また各クラブの部室も出きるそうである。なおこの工事に費やされる費用は千百万円で、これらは、PTA、同窓会、在校生の積立並びに銀行それらの利子で賄われる。

校内座禅会開かる

＜煎茶部＞

去る九月十九日作法室において煎茶部主催の座禅会が部員四十名、見学者十二名により厳かに行なわれた。〝座禅〟とは人間活動の根源を養うということだそうだ。一瞬、鐘の音で部屋中静まりかえる足と畳のすれ合う音……あぐらを組む。一見つらい様に見えるがそれ程でもない。再び部屋中何ともいえない様な静けさとなる。何だかこの時ばかりは呼気の音だけが無性に大きく聞こえる様に感じた目は開けず閉じず。〝背筋をのばし、顎を引き、お腹に力を入れる〟これはいかなる時においてもの合言葉。心が静まり無限の世界の境地へと。何だか恐ろしい様な感じがするが、なかなかどうして、静然とした座禅会に臨んで、いつものちゃめっぷりはいずこへ！

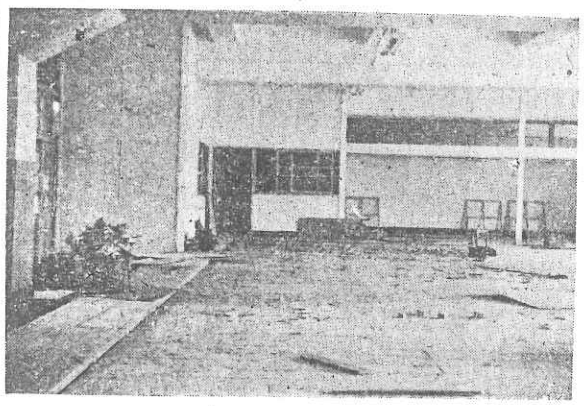


最高の設備

柔道室

九月上旬より開始された控室改築工事予定は八月十四日～十月十二日では、ほとんど十月上旬に完成したあったが工務店の方の事情で遅れそうだ。畳は十月下旬に入り最後の仕上げをする。危険防止のためプリンス・グ式という最高の設備がそなえられている。実際に生徒が使用できるのは十一月からだそうだ。

今まで柔道室をどう使用するか一cm四方の物を、一年生はかぎ針で



部説

仮装行列　改革並びに復活を

去る9月17日、朝礼において、体育大会の仮装行列、応援アーチ作制の禁止が発表された。

①作製物を置く場所がない。

②校舎の汚損

というのが主な理由であるが、我々はこれらに対して多くの疑問を持った。なぜなら、①の場合は、控室が柔道室に変わったのだから今年だけ使ってはいけないという理由にはならない。又②の場合は自治会執行部の強力な管理体制と自治会々員の自覚にたよるほかないのである。だが、禁止の理由は単にそれだけではない。

ここでまず昨年の仮装行列を思い出してみよう。準備に計画性がないから、三、四日前からあわてて準備し始める。無関心なものが多く結局少数のものが夜おそくまで居残らねばならない。そうして作ったものがはたして立派だといえるものだったか。十分な考慮なしに簡単に良い物が出来るはずはなく多額の費用をかけた割に、意味のないものに終ってしまった。

こういう傾向は昨年にかぎらずここ数年来続いている。特に仮装行列などというものは、学校の風紀状態、生徒の普段の生活など、適確に表わすものである。多数の人々の前にくりひろげられる仮装行列があまりにも、下品であり、低いレベル……嘲笑すらしばしば聞かれた。そういったものに情熱をそそぐことに何か笑ってすまされないものがあると、心ある人々の中で問題とされていた。

今年、偶然にも校舎の塗りかえという問題がおき、これを機会にこの一年間を反省期間として利用しようではないかという声が教員側でおこり職員会議で、とりあえず今年は禁止する事が議決された。

しかし、なぜそれについてもっと早くから生徒に考える時間、討議する機会を与えてもらえなかったのか。H・R等の時間を使い、担任から学校の立場、考えを説明してもらえばよい。そうすれば生徒も昨年の体育大会の反省をしたり来年是非するためにはどうすればよいかなど先生と生徒の間で話し合う事も出来る。

17日になってからの正式発表では遅すぎた。緊急に決定したことではないのだから、もっと早く発表すべきである。いやむしろ、こんな事は、一学期に、学校として態度を決定し、予告する位の計画性があって当然だ。もうすでに構想を練っているクラスもあったはずである。それを途中で禁止されたのであるから生徒の失望と不満はひとしお大きかった様に思われるだが、来年の体育大会からは、ぜひ仮装行列及び応援アーチの製作を復活させたいものである。今年は禁止された理由が述べられた二つの理由だけではなく、もっと深いところにあるとわかった今、生徒も深く反省する事が必要である。そして来年こそは誰に見られてもはずかしくない仮装行列をしようではないか。何事も考慮した上で応援アーチを作ろうではないか。

自治会執行部が強力に管理し、十日前までには各クラスが、どういうテーマで、どういう演しものをするかを予告することを義務とし連絡のないクラスはどんどんオミットする。予告との違反を発見すれば、当日でもストップをかける。それ位の力が自治会になくてはならない。

要するに昨年までのやり方と同じ様な仮装行列復活に全面的賛成と言う人はまず無いだろう。我々は少しでも良いものを創り出して行くことを目標にして、ゆっくり考える期間を持とうではないか。

老人へ愛の手を

家庭クラブ主催でこの度クラブ員全員により養老院に送る毛布を作る事に決まった。寒さを向かえて何かと不自由な、寂しい思いをされている御老人方にせめて毛布を作って御慰めしようと。毛糸で10二枚、二年生はガーター編み、三年生はメリヤス・ガーター編みで個々が四枚程度作り、縦十七個横十個をつなぎあわせて毛布を作り、これは文化祭展示後養老院に送る事になっている。

昭和37年11月11日

創立四十周年記念祭挙行

（なお文化祭と併合される予定）

文化祭補助予算決定

文化祭補助予算が9月2日議会で承認された。この額の他に現品支給として更生紙、模造紙、マジック、おしぼん、紙テープ、画用紙が自治会で一括購入され23日に支給される。

クラブ名	決定金額
図書部	二、五六〇
ブラスバンド部	三、〇〇〇
放送部	三、二〇〇
ESS	四、〇〇〇
演劇部	三、〇〇〇
華道部	二、一〇〇
軽音楽部	一、九四〇
ICC	一、四二〇
茶道部	二、二六〇
写真部	三、〇〇〇
社会科学研究部	一、三四〇
書道部	二、〇二〇
生物部	二、七三〇
煎茶部	二、五〇〇
点字部	一、二五〇
美術部	五、九〇〇
洋舞部	二、二〇〇
歴史研究部	二、七五〇
新聞部	二、六二〇
計	四九、七九〇

鉛筆

〝天高く○○肥える秋〟となり、二時間目が待ち遠しい季節となりましたナア。三年生諸氏は、こんなことをしていたんではイケマセゾン。〝天低く身細る秋〟とならなくちゃいけなくちゃ……。燈火親しむの候、やりましょうぜ一浪〝ひとなみ〟なんていっていないでストレートでネ。▼校舎内休暇中に美しくなりました。某君に言わせると〝伝統をぬりつぶしたナ〟だって。▼でもこれがアダとなって、体育大会、における仮装行列にアーチ作製は竣工検査がどうのこうのでダメ。「ついでに学校閉鎖したらどう」とは某年某君の弁▼でもまあ体育大会無事終了。あんなのを事無しというんでしょうヨ。〝仮装なき身にもあわれは知られけり……〟と西行さんが言ったとか言わないとか。▼サテ当日の受付のきびしかった事。〝良な阿倍高生を守れ〟とばかり、おエラ方が目玉キョロギョロ▼フト見上げると、九〇〇〇円也の立派な？アーチがデン。頭骸骨にきたのは餅子のみでしょうか。▼秋は夕ぐれ、フオーク・ダンスでも顔と心が一致せず、さもあらんジャングル、じゃないグランド中にひびく声、例によって例のごとく。▼自治会はどうしたの。他治会と改めては。▼その自治会、いまだ会計なし。昼寝が長すぎますぜ。選管委殿▼いよいよ中間考査。前途有望な生徒にはペン・ケーシーも〝勉強せよ〟と聞こえるとかなんとか。▼衣がえ白から黒へ。大いにクロうしましょう。

岡井喜三郎氏（伊藤先生御祖父）社会科日本史担当の伊藤先生の祖父岡井喜三郎氏は、9月22日老衰のため御逝去された。84才。

沢池正信氏（沢池先生御尊父）社会科日本史・社会担当の沢池利三先生の父沢池正信氏は、脳溢血のため御逝去された。

沢田巽二氏（沢田先生御尊父）生物担当の沢田聿江先生の義父沢田巽二氏は、8月23日脳溢血のため御逝去された。

塚本喜久氏（塚本先生御母堂）数学科担当の塚本努先生の母喜久氏は心臓衰弱のため9月17日御逝去された。72才

松田マサエ氏（松田先生御祖母）数学科担当の松田藤兵衛先生の祖母マサエ氏は老衰のため7月15日御逝去された

自治活動を探る

任務怠る選管委
開こう生徒集会を

最近、自治会が低調であると言われているが、ここに、自治会の現在問題となっている点をあげてみた。その他たくさんあるが、まずこの問題を解決することにより、阿倍野高校自治会も少しは活発になるであろう。自治会は我々のものである。生徒全員が、この問題を解決していかねばならない。

本紙一一七号、一一八号で既報のように、前期の会長辞任、今期の会計空白と阿倍野高校自治会は最悪の事態にぶつかっている。この原因を作ったのは、なんといっても自治会活動への無関心である。年々目に見えて減少する、自治会役員の立候補者、改善ぎわない選挙方法、現に前期で失敗した放送演説を今期に至って再度実施したのは、選挙方法に関して何ら進歩の跡が見られないことを明らかにしている。選挙管理委員会は自分達の任務を忘れていないだろうかただ、前の通りに、選挙を行うだけではない、欠点を改善し、良い方をより良くしていくのが本来の任務のはずだ。現在の選挙管理委員会はまだ解散されていないのにもかかわらず、活動が停止されている。会計空白を埋めるためにも活動していなければならないはずだ。我々一般生徒も阿倍高自治会発展のためにも執行部及び選挙管理委員会に協力する必要がある。自治会組織、自治問題を理解する唯一の機会を充分に持った上で、協力態勢をとるのが、自治会々員一人一人の当然の義務なのである。一般生徒が、自治問題と接する唯一のところとしてH・Rがある。自治会活動活発化のためにも、H・Rをより一層強化し、自治問題の討論の機会を多く作る必要がある生徒全体の意見を反映さし、全員が自治会活動に参加する最も良い機会として生徒集会がある。しかしながら、現在阿倍高では生徒集会は開かれていない。最近起った仮装行列、アーチの禁止問題にしても、大半を議会にまかし、生徒全体で討議せずに、禁止の徹回を要求したが、却下された。むしろ当然のことではなかっただろうか。弱体化している執行部や、自治会顧問の意見が強く影響している静かな議会にこの問題をまかせたことを反省して、これからこのような問題が起った場合生徒全体で話し合わなければならないことに気付かなければいけない。自治会会則第八章第三十六条にも〝一月に一回の定例集会を開き、必要に応じては臨時集会を開くことが出来る〟となっており、いかに生徒集会が重要視されていることがわかるであろう。けれども、今日まで開かれなかったのは執行委員や自治会集合部が生徒集会を理解せず、価値の薄いものとしていたのではないか。それとも生徒集会を理解していながら開かなかったのか。どちらにしても、任務の怠慢を追求されてもしかたがない生徒集会の長所は、生徒個人個人のなまの意見が自由に述べられ、それが直接生徒全員に伝わり、各々で理解し、感じたままのことの賛成・反対の意見を率直に発言できることである。H・Rの意見、提案が大して反映されていない今日、生徒集会の重要性を再度認識する必要が多分にある。

しゃべらぬ議会
活発な意見交換を望む

最近自治会が低調であるといわれている別な大きな理由として、議会の不活発があげられるであろう自治会会則によれば、議会は〝二週間に一回の定例議会を開くなお必要に応じて緊急議会を開くことができる。〟（第四章第八条）また〝議員の三分の二以上の出席がなければ成立しない。〟（同第九条）となっている。本校の議員の出席率は、いつも規定の三分の二が出席するのがやっとであり、しかもその上、意見を述べるものは四、五人といったところ。これでは、各クラスを代表している議員としてはまったくなさけないことであるひどいことには、賛否を聞いているのに「わかりません。」と答えるものがいる。特に一年生の女子議員に多いのだが、一年でまだわかりにくいだろうが、もう阿倍高の空気にもなれてきてもよいころだろうから、はっきりとクラスの意見を代表して述べてもらいたいただ出席して座っているだけでは、クラスを代表する議員とはいえない。また議会で、ある議員が意見を述べる。そうするとすぐに、自治会顧問がその意見に対して意見を述べる。議員と顧問の間で意見の交換。自治会の議会であるにもかかわらず、議員同志の意見の述べ合いが、全くといっていいほど見られない。議事進行について、ここでもう一度、考えなければならない。〝しゃべらぬ議会〟などと言われている現状を一日も早く返上し、そして活発な意見の交換が行われる議会になるためには、各クラス議員一人一人がクラスを代表していることを忘れずに、意見を述べることによって解決するのではないだろうか。

秋のクラシックフェスティバル

朝日学音組職部長　赤野潔

朝日学生音楽協会は昭和三十三年十月関西の音楽を愛好する学生により創設された。

企画、運営に及ぶまで全て学生の手によって動かされている全国でも稀な、それ故に意義のある音楽団体である。

創設以来〝よい音楽をより安く、より良い会場で〟をモットーに学生の人格、教養の向上をはかっています。勿論学生は全て奉仕で無報酬で働いています。そして関西の各中、高・大学に一人の代表者を置いて会員券などの配布、割引などの受付を行い直接会員の方と接触してもらっています。勿論サークルを組めない方には個人会員制度があり毎月学音事務所よりニュースをお送りしています。

原則として通常会費は百五十円ですが、物価値上りなどのため大体二百円前後となっています。又今の所例会はA（クラシック部門）B（ポピュラー部門）の二つに別れ会員の要望にそって、気軽に聞くことが出来それに高級な内容をもった催物を取り上げています。学生時代に勉強を怠たれば将来大成することが出来ません。しかしそれと同じ位に意義をもつのが音楽、殊に古典といわれるものです勉強オンリーの学生が堅物、融通のきかない人間と毛嫌いされるのは性格だけをみて嫌われるのではなくて、心にゆとりがない。客観的に物事を判断する心に欠けているというのを瞬間的に判断されるにちがいない。学音こそ、その様な人間にゆとりを与え将来の日本を背負うに足る人物、冷静な判断を下さる円満かつ積極的、精力的な人間を養成する貴重な団体である。判断に迷う時、静かな音楽を聞くことにより心慰められ、今まで気付かなかった別の解決方法を見出すということによく遭遇します。

そういった音楽の中でも特にクラシックと呼ばれる古典が人の心をつかんで離さない。いつになっても色あせない魅力に富んでいるといっても我々の偏見ではないでしょう。何故ならそれらの音楽は幾世紀もの苦しい試練に耐え得た実情を持つからです。

今迄の主な例会を紹介しますと、

第十八回（昭和三十五年九月）二期会によるオペラ「魔笛」

第十九回（昭和三十五年十月）日本フイルハーモニー

第二十三回（昭和三十六年一月）ダークのニューイヤーコンサート

第二十六回（昭和三十六年八月）チェミと東京キューバンボーイズ

第二十九回特別鑑賞会（昭和三十六年十一月）ウイーン少年合唱団

などです。

さていよいよ創立四周年を迎えることになった学音では秋のクラシックフエスティバルと銘うって連続演奏会を催し、会員の方に多いに楽しんでいただくことになりましたが、その内容を簡単に紹介してみますと、

十月十四日（日）午前十一時　セバスチャン・ベンダピアノリサイタル、会費二百三十円

十一月二十三日（祭）午後七時　ラデイスラフ・ヤーセック、ヨゼフ・ハーラジ楢イント・コンサート、会費二百五十円

十二月二十三日（土）午後二時　久保陽子バイオリン・コンツエルトということになっています。今が入会するにも絶好のチャンスです。

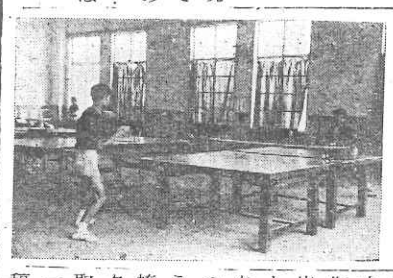
スイスの秘蔵！　セバスチャン・ベンダ

チームワークを誇る
放送部

特別クラブの一つとして活躍中の放送部をたずねた。部室内は録音室と操縦室に別れている。部員は全部で二十六人で、それぞれ企画課、技術課、放送課に属している企画課の運営により、技術課や放送課が動く。部としての仕事は、毎日の校内伝達放送、体育大会や水泳大会の報道、そして文化祭の時の放送劇等なかなかいそがしいクラブである。それだけに、部内の雰囲気は、活発でたいへん明かるい。また、二十六人が一つになって大家族を形成し、下校する時も全員で……。こんな状景は他のクラブに見られない。部員達は口をそろえて「クラブをやって本当に楽しい。皆、気が良く合っていて、明かるい。」また辛坊部長は、今後の方針はという質問に技術の向上とか、劇をうまくするというよりも、クラブを全員楽しくやって行くことに重点を置きたい。現在、完成しつつである。と答えられた。まったくうらやましいかぎりである。しかしこのクラブ内にも悩みがある。他のクラブと同じように、自治会予算が、少ないこと。そのため、技術課の設備がなかなかそろいにくいそうだ。また、特別クラブだと言われて他のクラブと別あつかいにされるので、部員達は、好きで入っているのだから、たいへんいやだそうである。あらゆる方面に活躍して本校になくてはならない存在となっている放送部。今日の昼食時も各教室に、美しい数々のメロデイーが流れている。

活躍めざましい
卓球部

授業終了のベルがなり終えると、まもなく講堂から、気持よくはじまるピンポン玉の音が聞こえてくる本校卓球部の練習開始である。その日にあったいやな事を全部忘れてしまって、明かるく気持ちよく練習を行っている。これが部員を見た第一印象である。近畿大会、全国大会出場と、校内運動クラブの内では、最も活躍目ざましい。現在部員は、三年生が三人、二年生が六人、一年生が十五人、計二十四名と、部員数は多いほうである。しかし、一年生十五人のうち男子が二人だけなので、男子部員がほしいというのがこのクラブの悩みである。悩みといえば、もう一つ大きなことがある。それは、控室が、新しく柔道場に改装されたため、今まで控室で練習を行っていたが、卓球専用の練習場がなくなったことである。だから、現在は、講堂の一角を練習場としているが、やはり、卓球部としてのまとまりのある練習場が、一日も早くほしいとのこと。練習は毎日、五時までということだが、五時になっても、部員達は、いつこうに帰ろうとはしない。まだみんな練習に励んでいるのである。実に熱心なクラブである。だから下校時間には、いつもとっぷり日がくれている。先輩達の残していってくれた輝やかしい伝統を持ったこのクラブ。毎日暮々と練習によって実力を積み重ねている。今後の卓球部の活躍に増々期待がもてる。



卓球部練習風景

十月末には御退院
今井誠太郎先生

我々新聞部員は、八月十四日より心臓弁膜症で入院中の体育科担当の今井先生を九月十二日放課後大阪市立大学病院におたずねした。病室は、新館四階の四五六号室で六つのベッドが静然と並べてあり我々が先生の寝ておられるベッドに近づくと、先生は読書中だったのか、めがねのわくに手をかけてめごねごしに我々の方を御覧になった。入院後一ケ月余り……。すっかりおやせになって（66㌔㌘あったのが今では51㌔㌘）力なく細々とした声で、「私は、気が強いからじっと寝ているのは耐えられない。それに腰が痛くて……。今では順調に回復しているし、気持の上では前と変わらず元気である退院予定は十一月末で学校には三学期から出る」とおっしゃられたのが大へん印象的だった。一日も早く元気になられ、登校される先生のお顔を拝見したいものだ。

聖火編集始まる

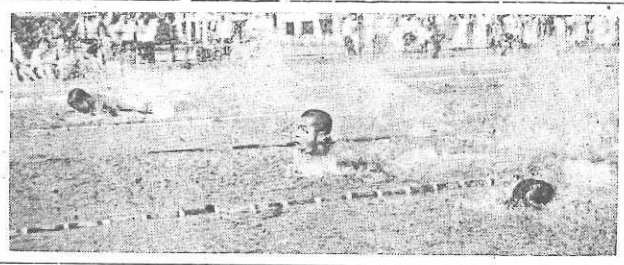
一年生六名二年生八名より構成されている聖火編集委員会が企画された。特集、高校生活を筆頭に、文芸欄・クラブ紹介・体育祭・文化祭・四十周年記念・修学旅行・出まかせ・自治会ページ・アンケート（理想の人）など。文芸欄とクラブ紹介の原稿は少しずつ集まって来ている。自治会ページはもう検討する所まで進み、特集、高校生活を大々的に取り上げるためクラブと勉強の両立など座談会に取り組んでいる。原稿の締切は十一月中頃、聖火箱まで数多くの原稿を募集中。

水泳大会
棄権者を少なくしよう

三の七（〃〃）

九月八日（土）一時より本校プールに於て水泳大会が例年のごとく催された。当日は快晴にめぐまれ水泳大会にとって申し分のない天気であった。がそれにもかかわらず当の生徒の方は、棄権するクラスが多く、又応援も余りかんばしくなかった。これでは学校全体の行事でなく一部の人の大会のような情景である。もっと参加するということに重点をおいて本大会に臨まなければならない。結果は次の通りである。

一位	二の二（27点）	
二〃	一の七（15〃）	
三〃	一の三（13〃）	
四〃	二の五（〃〃）	
五〃	三の四（10〃）	
六〃	一の一（8〃）	
七〃	一の八（〃〃）	
八〃	一の六（6〃）	
	三の六（〃〃）	



男子バタフライ

仮装行列 応援アーチ禁止に

第15回体育大会

インタビュー

「若さにかけている」「盛り上がりがない」

生徒「盛り上がりがない」父兄

◇…第十五回体育大会が、去る九月三十日（日）第二運動…◇
◇…場において、高く澄み渡った秋空の下で行われた。今…◇
◇…年は、例年と違って、仮装行列や応援の時のアーチが…◇
◇…禁止され、いつもの体育大会とは違っていた。そこで…◇
◇…教師、父兄、生徒達にインタビューをお願いした。一…◇
◇…部の意見にすぎないが多い意見をまとめてみた。また…◇
◇…競技の結果次の様に来まった。……◇

三年生　二年生　一年生

優勝　三の六　二の三　一の七
二位　三の四　二の七　一の六
三位　三の二　二の四　一の三

教師

野田教頭談

今回の体育大会は、全員が一つ二つの演技に於いて、非常に熱心で時間も予定通りにいき、これまでに見られなかった立派な態度であった。仮装行列やアーチ等のかざりがなく少し寂しい様であったが結果的に於いてはこの方が良かったと思う。

安永先生談

アーチや仮装行列がない方がすっきりしていて高校生らしい。その点今年の体育大会は成功だったと思う。

父兄

A　私の在学中から、他校と比較すれば、寂しかったんですが、今年は一層活気がないように見受けます。私としては、もっと若さのあふれるものを望みますね。

体育大会を終えて

応援の時のアーチや仮装行列禁止について大分もめた第十五回体育大会も無事終了した。全体的に見れば、時間的にもスムーズに運んだ。

しかし、雰囲気の盛り上りは余り見られなく例年と比べれば、寂しいものであった。インタビューの結果を見てもわかる様に父兄、生徒達は大部分、仮装行列、アーチを望んでいる。また、阿倍高の体育大会は若さにかけているというのだ。

B　やはり高校らしく、落ちついた雰囲気があります。特に女子の態度には感心しています。

C　しっくりはしているが、仮装行列やアーチがなくて、寂しいですね。私達はあれを楽しみにして来たんですが……。ある方が、何かしら気分が盛り上りますからね。

生徒

A　昨年よりおもしろくなかった応援がなかったので拍子ぬけがする。

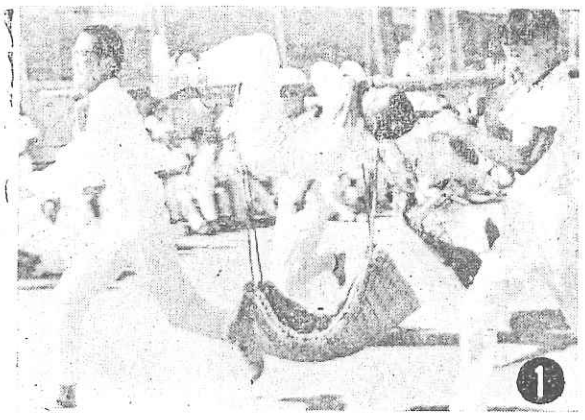
B　プログラムに盛り上がりがないので変化に富んだものにしてほしいですね。クラブリレーもありませんでしたね。残念でした。

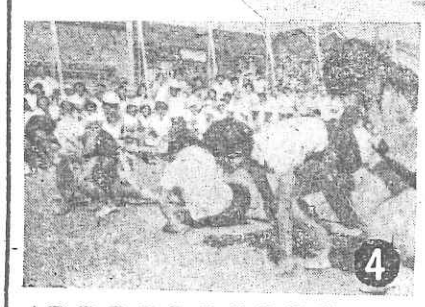
C　仮装行列をやはりやりたかったね。

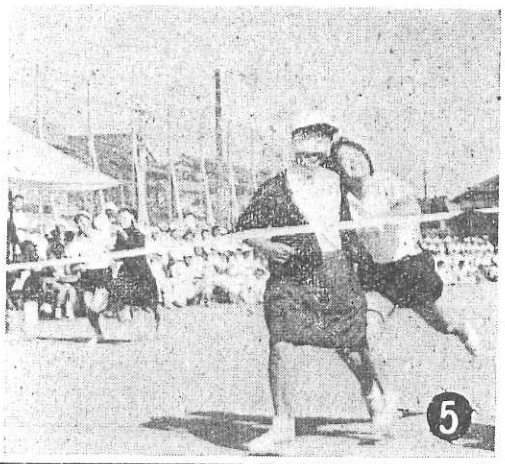
意見が、父兄からよく聞かれるがたしかに、本校の体育大会は静然としてエネルギイッシュなものがない、やはり、高校生らしく青空の下で体操、競争等を行ってほしいものである。しかしその反面、観戦態度が例年と比べれば、たいへん良かったと言われている。応援のアーチや、仮装行列がなかったからだとも言えるが、活気がなく若さにかけているから応援態度にも現われてくるのではないだろうか。ただそれだけではない。競技、応援だけでなく阿倍高全体が若々しさに欠けているということは残念なことである。また昨年行われたブラスバンド部のバレードがなかった。仮装行列がなくなった上によけい寂しさを感じさせられた。最後を飾るフォークダンスも、盛り上りかけたところで終り、もう少し時間をかけてもよかったのではないだろうか。また集会委員だけでは、運営できず、先生の力を借りなければならなかった事も残念だった。今後の体育大会には、欠点を直して、より有意義な楽しいものにして行きたいものだ。

（新聞部）

写真で見る体育大会







＝写真説明＝

①死んでも離れません籠かき競争
②アベック競争の真知子と春樹
③一年の創作ダンス
④ぬけられますかネ。女障外物競争
⑤イキピッタリ目かくし服装競争

スポーツ

剣道

◇九月十八日（阿倍高体育館於）

今宮工業　阿倍野
一年生　②－③
鳴橋メメ－服部
川田メメ－コ宮地
山野－メド田中
中村メ－ココ吉田
八尾－メコ林
②－⑦
コド大平－松本
メコ山口－津番
鳴鳴－斧　コメ
メコ赤野－伊藤
メメ森－春名
メ坂入－沢田
メメ中村－米井ヒ
コ相馬－木口ココ
ドコ福井－川島メ

◇九月二四日（阿倍高体育館於）

東住吉　阿倍野
第一試合　①－③
出田－コメ林
三木メコ－山口
コド森－山下
メ坂入－武富ド
コド大平－鹿島
第二試合　④－⑧
乗松コド－坂入
出田－コ鳴鳴
三木コ－山口
ココ森－山下
林－小森メ
中村－鹿島メ
メコ大平－武富

但し、メは面・コは小手・ドは胴

バスケット

◇九月二二日（阿倍高体育館於）

今宮　40（21－14）51　阿倍野
（19－37）

◇十月六日（浪速高体育館於）

浪速　60（26－13）40　阿倍野
（34－27）

野球

◇十月七日（報徳学園グランド）

報徳　0100010013
阿倍野　0000000202

投手　五十川・岡本捕手　臼井

兵庫県下では名門であり最近調子に乗っている報徳との試合に善戦した。敗れたが、安打数は7本づつで内容的には五分に闘った。

阿倍高案内

三行広告阿倍高案内の申込みは部員または直接部室まで……。

運動部

ラグビー　部員大募集中！男性スポーツの花形ラグビー部へ来たれ！

女籠球　伝統誇る阿倍高バスケット部へ来たれ！健全な身心を作るバスケット。

庭球　若き青春を謳歌する男女不問

軟式　来れ軟庭部へ

文化部

茶道　純日本芸術を誇る茶道！精神統一、品行方正を養う茶道部へおいで下さい。

能楽　日本純粋文学を理解したき者来れ！精神修養と我国独特の味を知り得る能楽部へ

新聞　真理を愛し、強い信念をもち、責任感のある阿倍高生諸氏の入部を迎う。

美術　美術芸術は、美しい心の持主を作る。部員募集、特に男子歓迎！

ハーモニカ　来れ！音楽愛好家よ特に男子部員歓迎！

文房具・事務用品・紙製品
なんでもそろう
大谷文具店
阿倍野区阪南町中一丁目
（阿倍野高校グランド前）

安くて
おいしくて
衛生的
三拍子そろった
みのわ
校内食堂

スポーツ用品なら
品質の良い
安くて・買い良い
大阪スポーツ
（アベノ筋6丁目松虫電停東入る大道筋）
TEL (661) 4351

旅

落葉
秋の日の
ヴィオロンの
ためいきの
みにしみて
ひたぶるに
うら悲し
（ヴェルレーヌ）

たのしかった立山

写真部

我々写真部の今年の夏のテーマは山を中心としたものを撮ろうという事になり、部員十名と顧問の先生二人を含む一行十二名は八月一日二十二時二〇分発の列車で一路立山に向かった。大阪駅ではシーズンの為、ある程度旅行者で混雑する事は予想していたが、信州北陸方面へ行く列は大きなリュックを背負った若い男女が延々と連なり早くも山の気分でむせかえるようであった。やっとの事で列車がくると、日頃の上品さはどこへやら、生存競争の激しさの一面を見たが幸いにも我々は全員席をとる事が出来た。大阪を出てから二時間は全員スタミナたっぷりであったがそれ以後は腰が痛いやら足がだるいとか、少しグロッキーぎみで充分に寝られないままに翌日の朝七時ごろ富山についた。富山から電車に一時間ほどゆられると終点の千寿ケ原に着く。またケーブルで美女平まで上がり、ここからバスで称陀ケ原行きバスに乗る。途中車窓より称名の滝が見えた。急いでシャッターを切ろうと大騒ぎをしたが、バスはあっという間にブナ林の中に入る。左右に残雪をちりばめた山々が我々の心をはずませて約一時間、称陀ケ原高原についた。ガイドが出迎えてくれて一緒に草原で昼食を済ませ愈々歩き始める。称陀ケ原から天狗平に行くまでには、急な坂道になりはじめた。始めガイドの話しでは宿舎の〝みくりが池荘〟まではほんの一・二時間ということであったが歩き出してから、一・二時間たってもゴロゴロの坂道ばかをする頃から雪が出て来て少々風が強くなった。剣御前の小屋に着き売店の人のいう事には、台風九号が明朝には来襲するとか、未だ判らないとか、なにしろ早く山を下りようと言う事で雷鳥沢を急いで下る。下る途中雪渓でグリセードを楽しんでから地獄谷を廻って、みくりが池荘に帰った。地獄谷ではイオウの蒸気が立ちこめ温泉が沸騰状態でふき出して居り、立ち入り禁止の立札があちこちに立てられていた。ゆっくり撮影する気にもならなかった。宿に帰りついて間もなく嵐模様になり夜になると、屋根が吹き飛ばされないかと思う程の暴風雨になり四日は一日中、宿に閉じこめられた。しかし夕方には物凄かった嵐も止み立山は全山夕日に映えてバラ色に染まり何とも言えない美しさだ。翌朝早く帰路についた。

キャンプ

野球部　森嶋寛

福知山駅から東舞鶴行のディーゼルに乗換え席は楽に座れた。平均時速九十キロで疾走するディーゼルに揺られて東舞鶴迄十五、六分、東舞鶴駅での乗換え時間が充分あると思っていたら「天の橋立行」の汽車が発車寸前で、我々は両手の荷物の重さを忘れるほど走った。客車は満員で我々は荷物車に放り込まれた。（人間なんて一種の荷物かもしれない）車内には四十前後のおばさん連中が乗り込んでいただけで、楽に出来た。

「どちらから。」「大阪です。」「泳ぎですか。」「はあ、キャンプです。」と、話しを交えているうちに汽車は由良川の鉄橋にかかっていた由良川の水の流れは真夏の太陽に照らされ青々と流れ、山々は緑々しくそのコントラストが実に整然とし時々静寂を破る様に汽笛が山々にこだまする。「丹後由良ー、丹後由良ー」やっと目的地に到着さあ、これからがわからない。ちよっと不安？が誘ったが海岸線には、直ぐ出られた。「オイ！朝子と早速友達になり店まで案内してもらった。（その男の子は大阪鮮半島見えるか、どっちの方向やら買いに行かなくてはいけない。丁度避暑にていた小学六年生の男の子と早速友達になり店まで案内してもらった。（その男の子は大阪対）我々は由良川の川口の反対方向にテントを張った。松の木の影で涼しくキャンプに絶好の場所であった。が、しかし奥の方に小さな立札が立ってあった。立札には「私有地につきキャンプ禁止。」と書かれてあり、意外だった。相談の結果強硬策でゆくことにした。ところで今晩のすきやきの材料を買いに行かなくてはいけない。丁度避暑にていた小学六年生の男の子と早速友達になり店まで案内してもらった。（その男の子は大阪

「ソ連の官僚主義についての文章等は

「ソ連の官僚主義についての文章等は

「ソ連の官僚主義についての文章等は